

令和元年度 卒業式 理事長告辞

“マスクだけ 目ランランと 春立ぬ”

春の陽射しをさえぎるようにマスクで覆う顔ばかり目立つ本日、第53回卒業式を迎えました。本来はここで来賓、保護者の方々へ御礼の言葉を述べるところですが・・・突然湧いたように発生した新型コロナウイルス。サーズでもなくエイズでもなく勿論インフルエンザでもない新たなウイルスの登場に世界中が恐れおののき不安を抱えています。

まさにその影響を受け、日本のそれも西端の佐世保の地まで、満足な卒業式も出来ない状況に陥っています。何回も卒業式の中止を考えましたが、最後に学長の式辞を皆さんに聞いて頂きたく、友人や教職員の皆さんとお別れを行っていただきたく、何より皆さんの門出をお祝いしたく卒業式を開催しました。来賓も保護者も後輩の皆さんも招待せず、時間も短縮しての卒業式になりましたことをご理解下さい。

さて、227名の卒業生の皆さん、このような状況だからこそ、心一杯のお祝いを申し上げます。人生にはもっともっと大きな試練が待っています。試練や逆境に負けることなく乗り越えていってください。地球の危機とも言われるこのウイルスも人間の英知できっと克服されることでしょう。コロナウイルスを克服した際は、人類の医学や危機管理能力、防疫体制等、きっと多くのことが今以上に進歩しているはずです。ここに集う皆さんの笑顔が輝いているように、人類の未来にも輝かしい可能性を託そうではありませんか。

この椎木キャンパスで得た学びや知識、身についた技術や資格、そして何よりも友人や先生方との出会いをいつまでも忘れることなく、力強く人生を歩んでいってください。

皆さんの未来、幸多き人生となることを祈って挨拶いたします。

令和2年3月7日

学校法人九州文化学園 理事長 安部直樹